

3. 児童発達支援事業(西部子ども家庭支援センター)

心身の発達に困難を持つ子どもとその家族に対して、支援を行うことで、家族が子育てに自信を持ち、安定した生活をおくれるようになることを目的としています。



通所バス

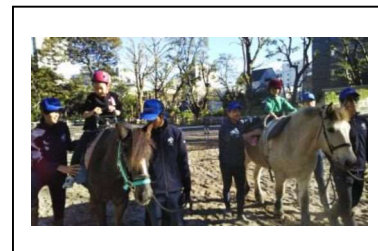
<年間行事>

馬と触れ合う会

5月29日(月)雨天中止、11月13日(月)56名参加

学習院大学馬術部の協力により例年実施しております。

学生の皆さまのサポートにより、心身の発達に課題があるお子さんも馬との触れ合いを楽しむことができ、貴重な経験をいただいています。



家族交流会

6月24日(土) 20名参加

日頃、療育に付き添っておられないお父さんにも参加いただき、センターの事業やセンターでのお子さんについて、知ってもらえる日であり、ご家族同士の交流の場にもなっています。

縁日ごっこ

8月2日(水) 83名参加



今年度も密を避け、2グループ制で縁日ごっこを実施しました。平日に実施でしたが、父親も多く参加していただきました。慣れている場所でのお祭りで、通所している子どもたちも動揺なく楽しめる機会となっています。卒所後の小学生も参加できます。



家族野外交流会(いもほり)

10月22日(日) 110名参加

光が丘公園近くの農園でお芋ほりをしました。この日はお父さんも大活躍。砂に触れることができなかったお子さんが、いつの間にか泥んこになったりしています。普段できない経験をすることができました。お弁当を食べて帰られたり、後援で遊んで帰られる家庭もありました。



園外保育

各グループで実施

通所バスを利用し、単独通所、親子通所のグループごとに近隣に園外保育に出かけます。

「ニコハピキッズ」「荒川遊園地」「アソボーノ」
「板橋こども動物園」



親子クッキング

12月9日（土） 15名参加

武蔵野調理師専門学校主催の親子で楽しく調理を楽しむ行事です。クリスマスのスイーツを作った後、プロが作ったおいしいお料理もいただきます。レストラン等の利用しにくさを抱えるご家族も安心して参加いただいています。



おたのしみ会

12月8日（金） 33名参加



通所グループの子ども達が日ごろの療育の活動をお父さんお母さんに見てもらったり、音楽を楽しんだりしました。サンタさんがプレゼントも持ってきてくれました。

3月14日（木） 予定

通所グループを卒業し、学校へ入学するお子さんの門出を祝う会です。1部が卒所式、2部が成長を祝う会とし、通所グループの全クラスで参加する行事です。

（2）関係機関向け発達講座

日 程	テーマ及び講師	参加者数
第1回 9月27日（水）	第1回発達支援講座 「ことばとコミュニケーション」 講師：言語聴覚士 新谷 ゆかり 氏	21名
第2回 1月31日（水）	第2回発達支援講座 「発達の気になる子どもと保護者へのサポート」 講師：作業療法士 河邊 宗知 氏	26名

年に2回、保育所や発達支援事業所等の方向けに講座を実施し、ZOOMでの開催。

(3) ペアレントメンター事業

発達障害児を育てた経験のある親が、自らの経験を踏まえ発達が気になる子どもの子育てを応援する事業。子どもの困難に気づいても専門機関への相談はハードルが高い場合もあり、当事者目線のメンターが話を聞くことで安心感につなげ福祉サービスや学校などの情報も伝える。東京都ペアレントメンター事業の養成研修を受け、東京都ペアレントメンター事務局に登録している。豊島区では4人のメンターが登録している。今年度は他区のメンターもお呼びし、隣接区の情報もうかがえた。また昨年に続き、講演会を実施した。



日時	対象年齢	メンター数	参加人数	日時	対象年齢	メンター数	参加人数
6/7(水)	年長	2人	3人	6/19(月)	未就学児	2人	4人
7/4(火)	未就学児	2人	3人	10/4(水)	未就学児	2人	3人
11/16(木)	未就学児	2人	2人	12/11(月)	未就学児	2人	2人
2/15(木)	未就学児	2人	3人	2/28(水)	年長	2人	4人
3/22(金)	未就学児	—	—				

(4) 児童発達支援事業について

〇お子さんが集団生活ができるようになると、仕事復帰をされる保護者がほとんどであるため、ここ数年の動向としては、発達支援の通所グループ(親子グループ、単独通所グループ)のニーズは減少傾向である。その反面、個別指導のニーズが高くなってきている。

個別指導の待機期間を短縮させるため、近隣の区民ひろば2か所(区民ひろばさくら第二、区民ひろば千早)のお部屋をお借りし、言語指導と作業療法の指導実施を今年度も継続した。令和6年度も継続する。

〇保護者会はZoomから対面に戻し、親同士の交流が増えた。民生児童委員様には保育をお手伝いいただいております、地域でつながる機会となっている。

豊島区立児童発達支援センターの開設

〇令和6年度、「豊島区児童発達支援センター」が西部子ども家庭支援センターに設置される。事業内容は児童発達支援事業、障害児相談支援事業に加え、新たに保育所等訪問支援事業の実施。そのほか、発達支援において地域の中核的な役割を担うにあたり、

- ・区民や民間の療育施設に向けた学習会を開催。
- ・施設面では、調理室、医務室、静養室を配置。
- ・職種においては栄養士を配置し、子どもの摂食や咀嚼に関することなどの相談・指導に対応。

などが現状に加えての実施内容となる。

*2月19日より3月中旬まで、このための施設の改装を行っています。一部、指導の振替がありますが休館の予定はありません。

令和5年度 発達相談・児童発達支援事業 年間統計

1. 相談総数

相談者数（人）

区 分	発達相談		小計	専門相談		小計	合計
	契約（無）	契約（有）		契約（無）	契約（有）		
5 年度	1,241	463	1,704	2,203	1,351	3,554	5,258
前年同期	906	344	1,250	1,322	818	2,140	3,390

2. 相談内訳ほか

（1）発達相談内訳（内容別）（件） ～子ども家庭支援ワーカーによる相談～

区 分	療育方針	発達把握	医療	訓練	教育	家庭生活	見学	その他	合計
5 年度	617	892	19	1	48	21	105	1	1,704
前年同期	464	686	17	0	8	4	67	4	1,250

（2）専門相談内訳 契約（無）

区 分	小児科	小児精神科	言語	理学	作業	心理	合計
5 年度	3	89	627	58	500	926	2,203
前年同期	3	64	396	54	328	477	1,322

（3）新規相談ケース来所経路

区分	保健所	医 療 機 関	福 祉 機 関	保 育 園 等	教育	区 民 ひ ろ ば	東部センター	西部センター	合 計
5 年度	73	11	3	22	0	17	23	25	
前年同期	71	5	2	19	1	9	11	31	
区分	利用者	パンフ レット	ホーム ページ	支援課	生活福 祉課	幼稚園	不明	その他	合 計
5 年度	1	1	24	0	0	7	14	46	267
前年同期	4	0	42	1	0	9	16	12	233

（4）医療機関との連携数

機関名	都立大塚病 院児童 精神科	都立大塚 病院小児科	心身障害児 総合医療療 育センター	平和眼科	あぜりあ 歯科	その他
5 年度	0	0	0	0	3	0
前年同期	1	0	0	0	10	7

3. 児童発達支援事業

(1) 障害児通所給付費契約状況（5年12月当月分）

区分	単独通所	親子通所	個別指導	支援グループ	契約数
5年度	6	10	188	5	209
前年同期	3	11	152	5	171

(注)

・各項目の「前年同期」は、前年同期の累計である。

・「契約」とは、障害児通所給付費の契約を指す。

・支援グループ：きりん・コアラグループを指す。

(2) 障害別内訳（5年12月当月分）

区分	運動障害	発達遅滞	重複障害	言語障害	その他	合計
単独通所	0	6	0	0	0	6
親子通所	0	10	0	0	0	10
個別指導	0	189	0	0	0	189
支援グループ	0	5	0	0	0	5
合計	0	210	0	0	0	210

(3) 専門相談実施状況 契約（有）

区 分		小児科	小児精神科	言語	理学	作業	心理	合計
5年度	単独通所	5	0	20	7	24	28	84
	親子通所	7	1	28	18	28	24	106
	個別指導	0	0	505	68	362	154	1,089
	支援グループ	0	0	10	0	37	25	72
	合計	12	1	563	93	451	231	1,351
前年同期	単独通所	0	0	15	5	12	13	45
	親子通所	8	0	26	19	25	39	117
	個別指導	0	0	257	51	232	71	611
	支援グループ	0	0	14	0	27	4	45
	合計	8	0	312	75	296	127	818

(4) 単独通所グループ（ぞう）

区 分	開所日数	出席児数	欠席児数	出席率
5年度	146	461	158	74.0%
前年同期	144	362	92	80.0%

(5) 親子通所グループ（うさぎ、ひよこ）

区 分	開所日数	出席児数	欠席児数	出席率
5年度	151	368	175	68.0%
前年同期	185	448	166	73.0%

4. 支援グループ

- (1) 集団適応準備グループ（きりん） ※4年、5年度実施無し

区分	開所日数	出席児数	欠席児数	出席率
5年度	0	0	0	0.0%
前年同期	0	0	0	0.0%

- (2) 幼稚園・保育園児フォローグループ（コアラ：年長児）

区 分	開所日数	出席児数	欠席児数	出席率
5年度	27	57	23	71.0%
前年同期	22	80	22	78.0%

5. その他

- (1) 親子遊び広場 発達相談事業（パオパオ）※区民ひろばでの出張相談含む

区分	開所日数	参加組数	参加人数
5年度	28	134	254
前年同期	31	112	219

- (2) 発達支援事業 相談グループ（たまごグループ） 29年度より開始

区分	開所日数	のべ参加組数	のべ参加人数	実人数
5年度	13	46	95	31
前年同期	15	38	84	21

4. 子ども虐待防止ネットワーク事業（相談支援・連携調整グループ） ～豊島区要保護児童対策地域協議会事業報告～



1. 要保護児童対策地域協議会 会議体実施中間報告

要保護児童対策地域協議会では親会にあたる「代表者会議」・子会にあたる「実務者会議」他様々な会議体にて、要保護児童要支援児童への支援の取り組みを進めております。

会議体	日 程	主な活動内容	備 考
(1)代表者会議	令和5年 6月5日(月) 15:00～16:30	- 令和4年度 事業報告 - 令和5年度 事業計画 等 - 意見交換 出席 57名	あうるすぽっと
	令和6年1月16日(火) 15:30～17:00 第2回	- 事業中間報告 - 豊島区児童相談所開設後の児童虐待対応の現状について - 意見交換	区役所本庁舎 センタースクエア
(2)実務者会議	第1回7月27日(木) 15:30～17:00	- 令和4年度 事業報告 - 令和5年度 事業計画について - 児童相談所における子ども家庭相談の状況 出席 30名	レクチャールーム
	第2回9月22日(金) 15:30～17:00	ヤングケアラー支援について事例検討 出席 28名	レクチャールーム
	第3回12月14日(木) 15:30～17:00	としま子ども権利相談室の“これまで”と“これから” 講師：子どもの権利擁護委員佐賀豪弁護士 出席 31名	レクチャールーム
	第4回2月16日(金) 15:30～17:00	高齢児童への相談支援 講師：子どもの権利擁護委員山下弁護士 出席：31名	レクチャールーム
実務者会議 (ネットワーク会議)	① 虐待進行管理 月に1回	虐待ケースの現状と支援方針の確認	豊島区児童相談所・相談支援G
	② ネットワーク会議 月1回	- 前月の子ども家庭支援センター新規受理ケースについて報告 - ケースの情報共有、支援方針の検討等 - 事例検討	葉崎・池袋・目黒警察署 少年係長 豊島区民社会福祉協議会 CSW 生活福祉課 西部生活福祉課 保健所 教育委員会 豊島区児童相談所 子ども若者課 子育て支援課 子ども家庭支援センター 保育課
実務者会議 (三機関連携会議)	③ 三機関連携会議 月に1回 定例会議にて進行管理を行う	(1) 特定妊婦及び支援を要する3歳未満の児童のいる家庭の支援に関する情報共有・進行管理。 (2) 一時保護・施設入所中などの児童のいる家庭について三機関で共有する。 (3) その他、三機関の所長が必要と判断したこと。	豊島区児童相談所 保健所 子ども家庭支援センター
(3)個別ケース 検討会議		ケースに関わる関係機関職員等と共に、情報を共有し、支援方針や役割を確認。	

2. 協議会の強化

関係機関との連携を強化するため、(1)(2)(3)を実施しております。

(1) 相談ワーカーの対応力の強化

職員の相談対応力強化のため、各種研修・OJTを実施中です。

例：児童福祉任用前研修・ヤングケアラー・動機付け面接・トラウマインフォームドケア・児相短期研修など

(2) 関係機関との連携

関係機関の連携を図るために①②の事業を実施しました。

① 虐待防止ネットワーク研修 2回実施

関係機関の皆様との連携強化のため、子どもに関わる内容の研修を年2回実施しております。

日 時	テーマ及び講師案
年2回開催	第1回 11月16日(木) 15:45~17:45 内容 ヤングケアラーへの支援 講師：田中悠美子先生 講師：元ヤングケアラー経験者 参加者：43名
	第2回 2月 8日(木) 15:00~17:00 内容 豊島区児童相談所開設後の豊島区の児童虐待対応の現状 について 講師：豊島区児童相談所 奥田晃久所長 参加者：89名(申し込み103名欠席14名)

② 関係機関へ出張講座

子ども家庭支援センター職員(相談支援・連携調整グループ)が各機関に訪問し、児童虐待や、ヤングケアラーについての勉強会を実施しております。

- 民児協 (R5 9月6回実施)
- ファミリーサポート援助会 (R5 6月・11月実施)
- 区内幼稚園・保育園 (R5 20か所実施)
- 区立小中学校 (R5 1か所実施)
- 区民ひろば (R5 3か所実施)
- 子どもスキップ (R5 5か所実施)
- 区内専門学校・大学 (R5 2か所実施)
- NPO 団体 (R5 1か所2回実施)
- 子ども研修(区職員) (R5 5月2回実施)



R5年度はテーマを選べるように設定。児童虐待の基礎知識・事例を交えた対応・豊島区児童相談所と子ども家庭支援センターの役割・ヤングケアラー支援など4つのテーマを実施中。関係機関との顔の見えるつながりも出張講座の目的となっている。R6 2月まで講座実施。申し込み先は連携調整グループ。

(3) 構成機関の拡充

虐待防止には早期発見・早期通告がとても重要。そのため、子どもたちに関わる関係機関について、要保護児童対策地域協議会の新規加入推進を継続中。現在84団体での構成となっているが、地域での子どもたちの見守りの目を広げられるように今後も継続します。

③ 虐待防止活動の展開

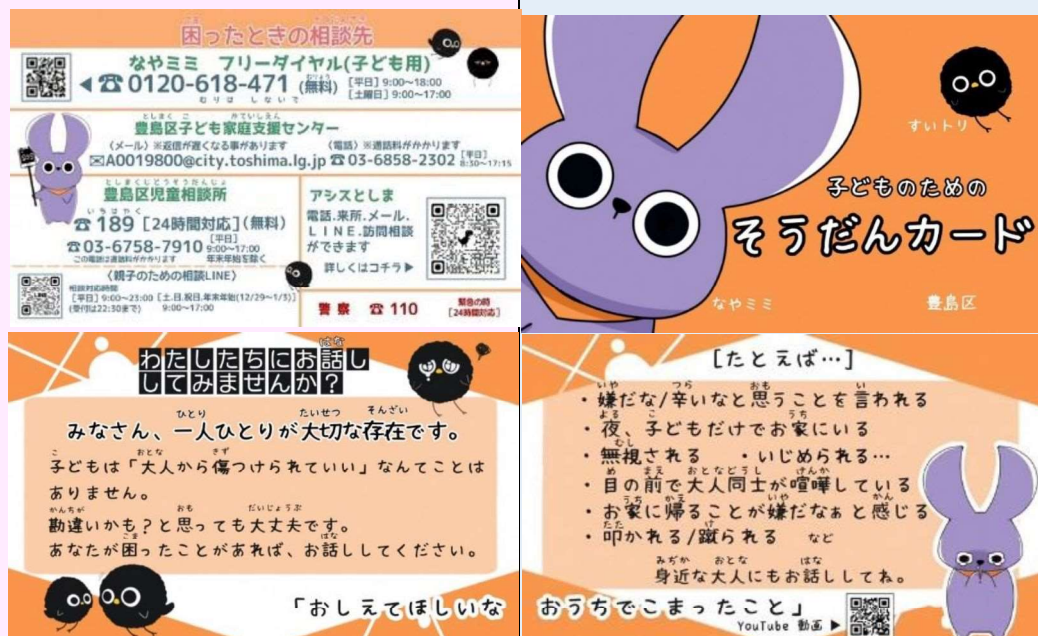
行政のみではなく、要対協・地域の皆様のご協力の元、様々な形態で児童虐待防止活動を行っております。

(1) オレンジリボン運動 運動の趣旨を広報しつつ、様々な世代・立場の区民とリボンを作成。各種イベントで配布し、虐待防止を訴える 	○更生保護女性会によるオレンジリボン制作 →毎月第四月曜日実施 ○大学・専門学校との協働の再開 ○大学・専門学校でオレンジリボン授業 ○オレンジリボン全庁職員の着用 ○DV 防止との連携でダブルリボンの作成を継続 ○ファーマーズマーケット出店 ○「社会を明るくする運動 区民のつどい」参加
(2) 「児童虐待防止街頭キャンペーン」 	○オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーン期間の11月に毎年実施。 豊島区児童相談所他関係機関、地域とともに区民への啓発活動の強化を目的に実施。 ○11月9日(椎名町駅)800 個配布 参加51 名 10日(大塚駅) 834 個配布 参加41 名 15 時半～16 時半配布 - 男女平等推進センターのDV 防止と協働で、オレンジリボン・パープルリボンのダブルリボンとキャンペーングッズを配布し、児童虐待防止・DV 防止の呼びかけを行った。
(3) 養育家庭体験発表会 	○児童相談所が主催 豊島区フォスタリング機関二葉乳児院 ○令和5年12月9日(土)実施 13時半～15時半 - 豊島区センタースクエア+オンライン - 参加者 会場 46名 オンライン5名 合計 51名 ○里親制度普及啓発活動の一環として、実際に子どもを養育した経験談を伝えることで、より一層の興味、関心を持ってもらうため実施。 ○制度説明・体験発表・パネルディスカッションを実施。

(4) もがれた翼 公演 「シン・フォニイ」 内容 アドボケート (子供の意見表明権) 	○令和5年 10 月 7 日(土) 18時開演 10 月 8 日(土) 14時開演 あうるスポット劇場 ○東京弁護士会と豊島区の共催にて、弁護士と子どもたちの作る芝居「もがれた翼」の上演。当日受付の劇であるが、両日とも満員御礼。そのため、両日ともホワイエにて演劇上映を急遽実施。
(5) 豊島区児童虐待防止区民講演会 	○令和5年 11 月 18 日 14時～15時半 「ネットゲームが子どもたちの心と体にもたらす影響」 講師：三原聡子先生(久里浜医療センター) 共催：明治安田心の健康財団 参加者 120 名 ○子どもたちを取り巻くスマホ・タブレット・ゲーム・インターネットの利用による影響を受け、病院受診に至った実際の事例や、影響についての講義。親子での参加者もいて、関心の高さが伺えた講演会となった。
(6) 豊島区要支援児童等見守り強化事業	○委託事業にて実施。見守り支援を必要とする家庭 200 世帯に対し月に 1 回半年間、食料支援及び訪問を行い地域につながることを目的に実施中。 ○令和5年 8 月～R6.1 月実施 200 世帯申込実施。利用家庭は月を追うごとに、地域の見守り支援員との信頼関係を深めていることが毎月の報告から感じられる。行政のみではなしえない、地域がつながることで、子どもたちの見守りの目が増え、子育てが「孤育て」にならないための支援の第一歩となった。
(7) SNS の活用 (YOUTUBE・Instagram・Twitter)	○東西子ども家庭支援センターは動画配信や Instagram・Twitter を活用。相談支援・連携調整 G は虐待防止動画アニメ配信 R5.2.1～リニューアルにて配信中 子どもの相談カードにも掲載

(8) 子どもの相談カードの配布

令和5年2月に配布した「子どもの相談カード」を令和5年7月夏休み前にカードの連絡先を追記した上で再度、配布済
カードイメージ図(2つ折り・横)



④ 新たな活動の取り組み

新たな活動の取り組み状況についてご報告します。

(1) 三機関連携会議について

○三機関連携会議の位置付

要保護児童対策地域協議会の実務者会議の中に位置づけている。

※参考資料 要対協要綱より抜粋

(三機関連携会議)

第8条 児童相談所、保健所(健康推進課・長崎健康相談所)、子ども家庭支援センターの三機関による連携会議(以下連携会議)は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 特定妊婦及び支援を要する3歳未満の児童のいる家庭の支援に関する情報共有・進行管理。
- (2) 一時保護・施設入所中などの児童のいる家庭について三機関で共有すべきこと。
- (3) その他、三機関の所長が必要と判断したこと。

毎月の定例会議の中で、上記に該当する家庭について3者で共有。三機関でできることの役割分担をスピード感を持ち、毎月進行管理できるようになった。

「共通の言語で共通の理解」のために、乳幼児アセスメントシート・妊産婦アセスメントシート・リスクアセスメントシート・家庭復帰のためのシートなどを用いて、目に見える形で情報を共有し、のりしろ型支援を含む役割分担や情報共有を行っている。

令和5年2月～令和6年1月までの取り扱い件数 235件

2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	合計	
13	14	14	15	28	22	22	23	24	17	24	19	235	
総数内訳		情報提供		身体的虐待		心理的虐待		ネグレクト		性的虐待		養育困難	特定妊婦
235件		16		23		71		19		0		76	30

(2) ヤングケアラー支援について

豊島区の取り組み

令和 3 年度 庁舎内のヤングケアラー支援連絡会議の開催。

令和 4 年度 普及啓発研修実施

概数把握のために無記名のアンケート実施 区立小 4～中 3 及び区内高校生年齢児
その結果豊島区に 71 人のヤングケアラーがいることが判明。

令和 5 年度の支援

○ヤングケアラー常設相談窓口を子ども家庭支援センターに設置

○ヤングケアラー支援コーディネーター配置

他自治体では、ヤングケアラーの普及啓発や研修・関係機関へのアドバイスをするコーディネーターが多い中、豊島区では、普及啓発活動・研修・関係機関への助言だけではなく、子どもたちの話を聴く、個別のヤングケアラー家庭への直接支援も行っている。

○ヤングケアラーコーディネーターの支援家庭数 12 月末で 24 世帯への支援を実施。

支援内容：子どもとの面談・保護者との面談・家庭全体のアセスメントに基づいた、
サービス支援の調整・他機関との連携など
ヤングケアラーの解決のために寄り添い型支援を実施
育児支援ヘルパー・ショートステイ・トワイライトステイの活用
外国語の通訳支援の活用や地域の社会資源へのつなぎなど

きょうだい児へのケア・・・15 保護者へのケア・・・9

○ヤングケアラー普及啓発活動 ①ジャンプに毎月訪問（長崎・東池袋を隔月に訪問）7 月～継続中

②出張講座でヤングケアラー研修 4 か所

③民生委員児童委員協議会にてミニ研修 9 月実施

民生委員児童委員協議会・CSW 向け研修 11 月実施

④実務者会議・ネットワーク会議で研修実施 9 月・11 月実施

④都内近郊のヤングケアラー支援を実施している自治体との連絡会実施

○ヤングケアラー関係機関連絡会議の実施

区関係者のみではなく、地域で活動している団体も含め、ヤングケアラー関係機関支援連絡会議を

12 月 12 日実施。今後も関係機関との顔の見える関係を継続し、ヤングケアラー支援へ官民協働で支援を検討する。



(3) 「なやミミ」「すいトリ」について

子どもの相談先啓発キャラクター「なやミミ」「すいトリ」について

令和5年2月の児童相談所開設時に子どもの相談カードをリニューアルしました。

子どもたちがわかりやすいように、啓発キャラクターを作成。

令和5年2月カード配布時に区立小学校4年生～中学校3年生までの児童生徒にキャラクター名を公募し、2755名の子どもたちより応募があり、

子どもたちの話を聴きたい大きな耳の「なやミミ」

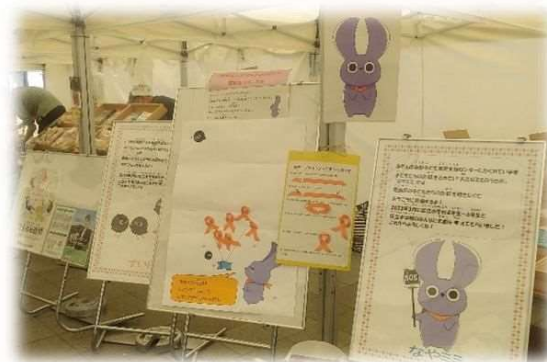
子どもたちの悩みを吸い取りたい鳥の「すいトリ」

に命名となりました。

子どもたちの相談をする部署では共通にこのキャラクターを利用することができ、様々な所でこのキャラクターが活躍しています。

子ども向けの区民の声にもこのキャラクターが活躍しております。

子どもたちが相談しやすいように今後もこのキャラクターの活用を継続します。



⑤要保護児童の状況

(令和5年12月末現在 速報値)

1. 相談・通告件数 (子ども家庭支援センター)

年度	新規受理	前年度より継続	取り扱い件数	うち終了
30年度	522	309	831	514
31年度	475	317	792	385
2年度	588	407	995	621
3年度	800	374	1174	619
4年度	709	555	1264	619
5年度	451	645	1096	583

2. 相談・通告の種別

区分	虐待					養護相談										合計
		ネグレクト	身体的	心理的	性的		養育困難	特定妊婦	非行	発達	不登校	家庭内暴力	性格行動	いじめ	その他	
30年度	613	191	208	214	0	218	134	39	3	0	4	0	22	0	16	831
31年度	594	152	226	214	2	198	132	29	2	0	1	1	18	0	15	792
2年度	807	168	279	355	5	188	116	31	3	0	4	2	17	0	15	995
3年度	939	181	379	371	8	235	160	32	0	0	1	0	19	0	23	1174
4年度	934	176	365	386	7	330	241	49	3	0	0	0	20	0	17	1264
5年度	753	156	277	317	3	343	286	37	4	0	1	0	13	0	2	1096

3. 主な虐待者

区分	実母	実父	継母等	継父等	祖父母	その他	合計
30年度	357	196	1	12	0	47	555
31年度	356	189	1	6	3	39	613
2年度	478	270	1	12	5	41	594
3年度	537	349	3	5	3	42	807
4年度	499	377	3	3	2	50	934
5年度	399	319	0	6	2	27	753

4. 相談・通告児童の年齢

区分	虐待								養護相談								合計
		胎児	0~2歳	3~6歳	小学生	中学生	高校生	不明		胎児	0~2歳	3~6歳	小学生	中学生	高校生	不明	
5年度	753	1	166	175	288	73	32	18	343	36	100	61	75	37	32	2	1096

5. 相談・通告経路

虐待

区分	近隣	家族・親戚	児童本人	区子ども家庭支援センター(東高)	区子ども家庭支援センター(区民支援G)	区子育て支援課(女性相談)	区子育て支援課(その他)	区生活福祉課	区役所他課	民生・児童委員	保健所	保育園	スキップ・ジャンプ	区民ひろば	幼稚園	小学校	中学校	教育委員会	医師	警察	豊島区児童相談所	他児童相談所	その他	合計
5年度	26	22	3	67	132	11	2	4	37	9	54	65	16	1	1	90	11	14	6	4	55	64	59	753

児童相談

区分	近隣	家族・親戚	児童本人	区子ども家庭支援センター(東高)	区子ども家庭支援センター(区民支援G)	区子育て支援課(女性相談)	区子育て支援課(その他)	区生活福祉課	区役所他課	民生・児童委員	保健所	保育園	スキップ・ジャンプ	区民ひろば	幼稚園	小学校	中学校	教育委員会	医師	警察	豊島区児童相談所	他児童相談所	その他	合計
5年度	3	29	2	38	78	7	5	3	1	16	43	22	6	0	1	3	9	6	12	2	13	12	32	343

7. 子家から区児相に送ったケースの状況

区分	送致 (虐待)	送致 (虐待以外)	対応依頼 (虐待)	対応依頼 (虐待以外)	情報提供 (虐待)	情報提供 (虐待以外)	合計
5年度	19	0	17	2	25	1	64

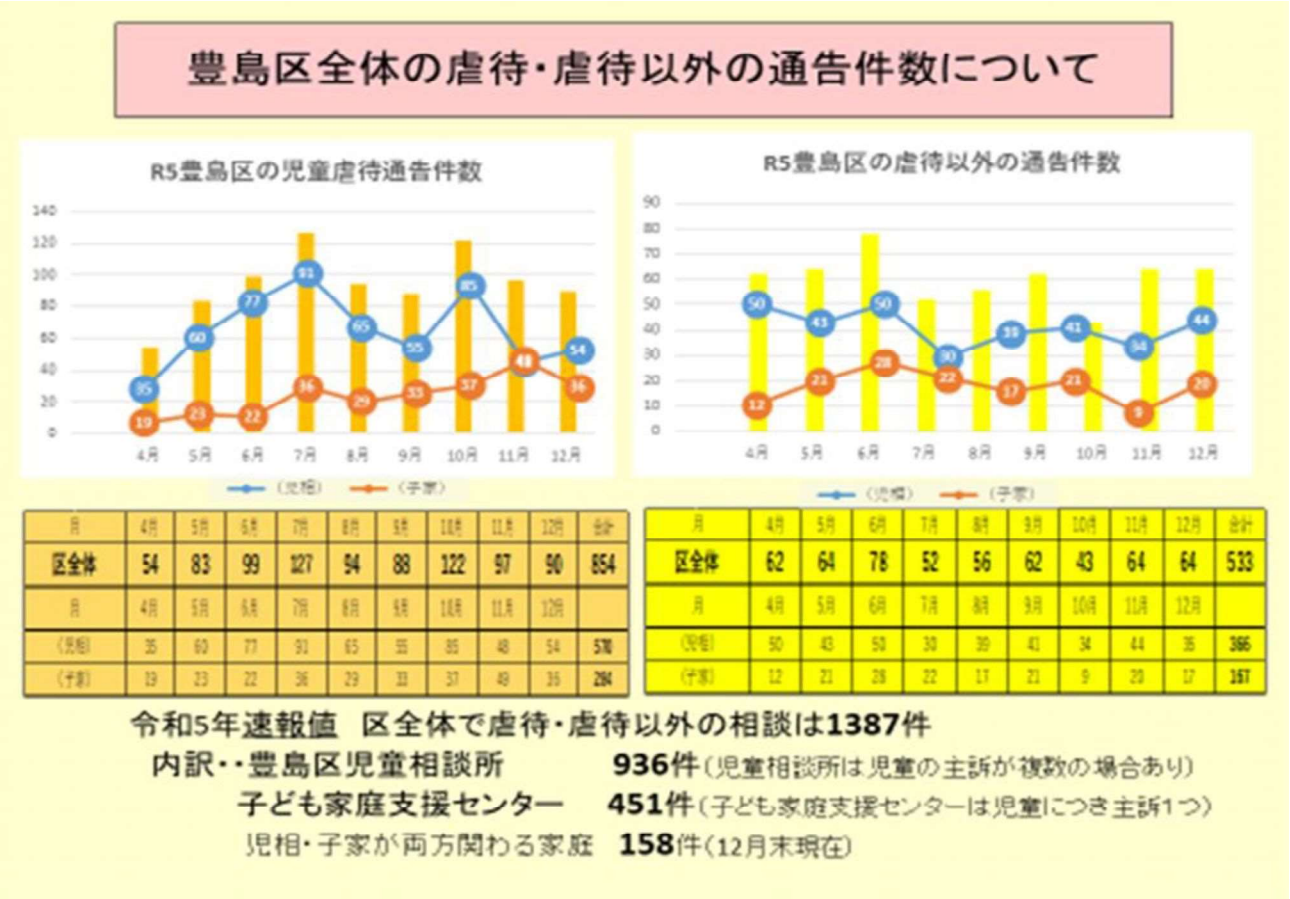
8. 区児相から子家に送ったケースの状況

区分	面前DV	泣き声 通告	その他 虐待	その他	対応依頼	指導委託
5年度	17	8	5	1	30	0

9. 終了ケースの状況

区分	非該当	改善	助言	施設入所	転出	合計
30年度	86	274	107	13	34	514
31年度	59	189	68	8	61	385
2年度	63	308	188	15	47	621
3年度	63	308	188	15	47	619
4年度	49	328	195	6	41	619
5年度	42	277	202	8	54	583

10. 豊島区全体の新規通告件数



5. ショートステイ事業について ※ 施設の利用枠はすべて1名様

【施設ごとの利用実績 R3年度】

R3	一般家庭ショートステイ				要支援家庭ショートステイ			トワイライトステイ(要支援家庭)		計
	石神井学園	子供の家	聖オディリア乳児院	協力家庭	聖オディリア乳児院	子供の家	協力家庭	協力家庭	愛の家	
利用人数	7人	3人	9人	3人	0人	28人	5人	1人	2人	58人(※)
利用泊数	29泊44日	7泊10日	44泊57日	13泊25日	0泊0日	331泊430日	12泊24日	41回	126回	436泊590日167回
計	利用人数:22人 利用延べ日数:93泊136日				利用人数:33人 利用延べ日数:343泊454日			利用人数:3人 利用延べ回数:168回		

※事業の実利用人数は50人。各施設の利用人数(58人)－複数施設利用人数(8人)



【施設ごとの利用実績 R4年度】

R4	一般家庭ショートステイ				要支援家庭ショートステイ			トワイライトステイ(要支援家庭)		計
	石神井学園	子供の家	聖オディリア乳児院	協力家庭	聖オディリア乳児院	子供の家	協力家庭	協力家庭	愛の家	
利用人数	9人	5人	13人	1人	2人	38人	9人	4人	2人	83人(※)
利用泊数	33泊53日	8泊13日	55泊79日	12泊24日	22泊28日	336泊489日	22泊39日	64回	62回	488泊725日126回
計	利用人数:28人 利用延べ日数:108泊169日				利用人数:49人 利用延べ日数:380泊556日			利用人数:6人 利用延べ回数:126回		

※事業の実利用人数は72人。各施設の利用人数(83人)－複数施設利用人数(11人)



【施設ごとの利用実績 R5年度(～R6.1月)】

R5(～1月)	一般家庭ショートステイ				要支援家庭ショートステイ			トワイライトステイ(要支援家庭)		計
	星美ホーム	子供の家	聖オディリア乳児院	協力家庭	聖オディリア乳児院	子供の家	協力家庭	協力家庭	愛の家	
(～1月)利用人数	20人	11人	21人	15人	2人	141人	7人	8人	0人	225人
(～1月)利用泊数	43泊63日	71泊100日	46泊67日	20泊35日	3泊5日	242泊360日	50泊77日	150回	0回	475泊707日150回
(年度未予測)利用泊数	52泊76日	85泊120日	55泊80日	24泊42日	4泊6日	290泊432日	75泊112日	180回	0回	570泊848日180回
計	(～1月) 利用人数:67人 利用延べ日数:180泊265日 (年度未予測) 利用人数:80人 利用延べ日数:216泊318日				(～8月) 利用人数:150人 利用延べ日数:295泊442日 (年度未予測) 利用人数:180人 利用延べ日数:354泊530日			利用人数:8人 利用延べ回数:150回		

※事業の実利用人数は161人。各施設の利用人数(225人)－複数施設利用人数(64人)

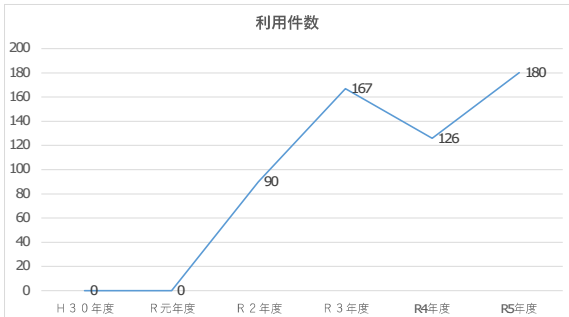
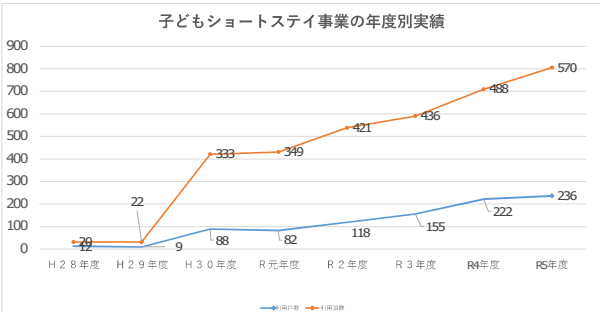
【子どもショートステイ事業の年度別実績】

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	※ R5年度	※ R5年度未予測値
利用件数	12	9	88(65)	82(42)	118(80)	155(111)	222(176)	236(150)	
対前年度(利用件数)	—	75.0%	977.8%	93.2%	143.9%	131.4%	143.2%	106.3%	
利用泊数	20	22	333(277)	349(265)	421(347)	436(343)	488(396)	570(354)	
対前年度(利用泊数)	—	110.0%	1513.6%	104.8%	120.6%	103.6%	111.9%	116.8%	

※()は要支援家庭ショートステイの実績(内数)

トワイライトステイ利用件数

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	※ R5年度	※ R5年度未予測値
利用件数	0	0	90	167	126	180	
対前年度比	—	—	—	185.6%	75.4%	142.8%	



6. 令和5年度豊島区バースデーサポート事業

令和6年2月末日時点

【概要】

妊娠・出産・子育て期間における切れ目ないサポートの一環として、都補助金を活用し、1歳児を対象に絵本のプレゼントを行う「バースデーサポート事業」を実施してきた。

令和5年度より、国の妊娠出産子育て支援策の重点化に伴い、都においては補助金の拡充が図られることとなり、「バースデーサポート事業」の内容を、絵本のプレゼントからこども商品券（第1子1万円、第2子2万円、第3子以降3万円）を支給し、未通園児には区職員が家庭訪問を行い、家庭状況の把握と虐待の未然防止につなげることを目的とした事業である。

★統計データ【対象：R5.4月～R6.3月生まれ】

■ アンケート発送前の状況(基礎データ)

【対象者数】

	東部C	西部C	管理G	合計
4月	33	23	74	130
5月	28	25	75	128
6月	57	48	75	180
7月	52	39	67	158
8月	65	36	57	158
9月	68	41	56	165
10月	65	51	51	167
11月	71	39	34	144
12月	60	58	48	166
1月	72	41	20	133
2月	64	40	19	123
3月	70	37	21	128
合計	705	478	597	1,780
割合	39.6%	26.9%	33.5%	100.0%

【性別】

	人数	割合
男性	895	50.3%
女性	885	49.7%
合計	1,780	100.0%

【国籍】

	人数	割合
日本人	1,672	93.9%
外国籍	108	6.1%
合計	1,780	100.0%

【構成】

	第1子	第2子	第3子	第4子	第5子	第6子	第7子	合計
人数	1,033	617	109	18	2	0	1	1,780
割合	58.0%	34.7%	6.1%	1.0%	0.1%	0.0%	0.1%	100.0%

【内訳】

	第1子	第2子	第3子	第4子	第5子	第6子	第7子	合計
東部C	384	265	48	7	1	0	0	705
西部C	296	151	25	6	0	0	0	478
管理G	353	201	36	5	1	0	1	597
合計	1,033	617	109	18	2	0	1	1,780

【多胎児】

	組数	割合	割合＝組数÷対象者数 全体の組数＝1,752
双子	24	1.4%	
三つ子	2	0.1%	
合計	26	1.5%	

■ アンケート回収後の状況

【接触状況(アンケート回収)】

	対象者数	回収数	未回収数	回収率	未回収率
東部C	705	578	127	82.0%	18.0%
西部C	478	423	55	88.5%	11.5%
管理G	597	580	17	97.2%	2.8%
合計	1,780	1,581	199	88.8%	11.2%

【月別未回収状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
東部C	3	4	1	11	7	10	10	12	14	13	17	25	127
西部C	3	0	4	2	0	4	7	6	6	5	7	11	55
管理G	1	0	2	1	4	2	1	1	3	0		1	17
合計													199

【こども商品券受取状況】

発送数	1,426
受取完了数	1,423
未受取	3
完了率	99.8%

【国籍】	人数	割合
日本人	175	87.9%
外国籍	24	12.1%
合計	199	100.0%